

教科	国語	科目	論理国語	学年	2年(普通科探究類型理系、園芸クリエイト科)	単位数	2
教材	教科書	標準 論理国語			出版社名	第一学習社	
	副教材	常用漢字クリア (尚文出版)					

学習の目標	1	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けます。
	2	論理的、批判的に考える力を伸ばし、創造的に考える力を養い、自分の思いや考えを深めます。
	3	言葉を通して積極的に他者や社会に関わろうとする態度を養います。

		教材内容(単元)	学習計画・内容	考查計画
1 学期	4月	理解編 I 新しい発見 進化が導き出した答え	○ 内容や構成、論理の展開を的確に捉え、論点を明確にしなが重要を把握します。 ○ オーサグラフ地図の特徴を捉え、筆者が述べる「新しい世界観」との関連について考察します。 ○ 根拠や論拠を批判的に検討し、文章の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈します。	中間 考查
	5月	新しい地球観		
	6月	言葉と文化 教え方で磨く日本語		
	7月	名所絵はがきの東西		期末 考查
2 学期	8月	生活の中の表現 情けは人の・・・ 犬も歩けば棒に当たる	○ 関連するテーマの文章を読み比べ、書き手の立場や目的を考えながら内容を解釈し、両者を比較しながら考えをまとめます。 ○ 設定した題材について分析した内容を、レポートにまとめる方法を学びます。 ○ 本文中で通貨と対比されているものの性質を把握し、筆者の述べる通貨の本質を理解します。 ○ 因果関係を解き明かしていく論理構成の手順を把握します。	中間 考查
	9月			
	10月	表現編 レポートを書く		
	11月	理解編 I 人間と文化 バラと通貨はどう違う？		
	12月	ヒトはなぜヒトになったか		
3 学期	1月	自己と社会 共同性の幻想 鏡としての他者	○ 粘り強く本文の構成と論理の展開を捉え、学習課題に沿って要旨をまとめます。 ○ 異なる形式で書かれた複数の実用的な文章を読み、解釈したことを学習課題に沿ってまとめます。	学年 末 考 査
	2月	実用文 法に関わる文章を読み比べる		
	3月	ボランティアへの参加を伝える メールの文章を検討する		

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができている。	論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができている。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度が身に付いている。

評価の方法	定期考查の得点と授業時の活動や発言、提出課題、小テスト等を資料として観点ごとに評価し、学年末の成績は、各学期の成績を基に算出します。
-------	--

学習へのアドバイス	1 予習をしっかりとしましょう。配布されたプリントは、家庭で自分の力で解きましょう。 2 忘れ物をせず、授業に集中しましょう。忘れ物をすると意欲と理解力が低下します。 3 考查前には、配布されたプリントを見直すなどして必ず復習をしましょう。
-----------	--

教科	公民	科目	公共	学年	2年（普通科、園芸クリエイト科）	単位数	2
教材	教科書	高等学校 新公共			出版社名	第一学習社	
	副教材	最新公共資料集2024（第一学習社）、2024公共ワークブック（高教研）					

学習の目標	1	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手がかりとなる概念や理論の理解を深めます。
	2	事実を基に多面的・多角的に考察し、判断する力や構想したことを議論する力を育てます。
	3	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を育てます。

		教材内容(単元)	学習計画・内容	考查計画
1 学期	4月	第1編 公共の扉 第1章 公共的な空間をつくる私たち	○ 社会に参画する自立した主体とは、様々な集団の一員として生き、他者との協働により公共的な空間を作る存在であることを理解します。 ○ 先人の取り組みや知恵などを踏まえ、社会に参画する際の手掛かりとなる概念を理解します。	中間 考査
	5月	第2章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方		
	6月	第3章 公共的な空間における基本的原理		
	7月	第2編 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち 第1章 法的な主体となる私たち	○ 法に基づいて各人の利害を調整することで、権利が自由が保障され社会秩序が維持されていくことを理解します。	期末 考査
2 学期	8月		○ よりよい社会は、憲法の下、個人が議論に参加し、意見や利害対立状況を調整して合意を形成することなどを通して築かれるものであることを理解します。 ○ 公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られることや、活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることを理解します。	中間 考査
	9月			
	10月	第2章 政治的な主体となる私たち		
	11月	第3章 経済的な主体となる私たち		
3 学期	12月		○ 持続可能な地域や国家づくりに向けた役割を担う自立した主体となることに向けて、現代の諸課題を探究する活動を行います。	学年 末考査
	1月			
	2月	第3編 持続可能な社会づくりの主体となる私たち		
3月				

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手がかりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れたりしながら構想したことを議論したりしている。	よりよい社会の実現を視野に、国家及び社会の担い手として、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。
評価の方法	定期考査の得点と授業時の活動、課題レポート、授業ノート、単元ごとのまとめなどの提出物を資料として観点ごとに評価し、学年末の成績は、各学期の成績を基に算出します。		
学習へのアドバイス	1 授業の前に、教科書の予習（通読）をしましょう。 2 授業中の説明に集中し、分からないこと、疑問点は質問しましょう。 3 新聞やニュースなどで、時事問題に興味・関心を持ちましょう。		

教科	数学	科目	数学Ⅱ	学年	2年(園芸クリエイト科 選択)	単位数	2
教材	教科書	高校数学Ⅱ			出版社名	実教出版	
	副教材	特になし					

学習の目標	1	複素数と方程式、図形と方程式、三角関数についての理解を深めます。
	2	基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を身に付けます。
	3	数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を養います。

		教材内容(単元)	学習計画・内容	考查計画
1 学期	4月	1章 複素数と方程式 1節 式の計算	○整式や分数式の計算ができるようにします。	中間 考査 期 末 考 査
	5月	2節 複素数と2次方程式	○虚数を理解し、複素数の範囲で2次方程式が解けるようにします。	
	6月	3節 高次方程式	○因数定理を用いて、高次方程式が解けるようにします。	
	7月	4節 式と証明	○等式や不等式を証明するための論証の方法を学習します。	
2 学期	8月	2章 図形と方程式 1節 点と座標	○点の座標や内分・外分について理解します。	中間 考査 期 末 考 査
	9月	2節 直線の方程式	○直線の傾きに着目して、ある直線に平行な直線や垂直な直線の方程式を求められるようにします。	
	10月	3節 円の方程式	○円の方程式について理解し、円と直線の位置関係および共有点の個数について理解します。	
	11月	4節 不等式の表す領域	○不等式を満たす点の集合が領域ということがわかり、いろいろな不等式が表す領域を図示できるようにします。	
3 学期	1月	3章 いろいろな関数 1節 三角関数	○一般角について三角関数の値を考え、それらをもとに三角関数の相互関係や性質、グラフを理解します。	学 年 末 考 査
	2月	2節 加法定理/弧度法	○加法定理と弧度法について理解し、それらを用いて2倍角の公式や三角関数の合成、扇形の弧の長さを学習します。	
	3月			

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力を身に付けている。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとする態度や創造性の基礎を身に付けようとしている。
評価の方法	定期考査の得点や授業態度、活動状況・課題・小テスト・プリントやノート等の提出物などを各学期で観点別に評価します。それらの評価を用いて学年末の成績とします。		
学習へのアドバイス	1 学習内容全般において、数学の基本的な知識の習得と技能の習熟を図りましょう。 2 問題解決等を通して、物事を筋道立てて考えたり、具体的な手順などを考えてみましょう。 3 指示された範囲の予習をきちんとし、問題意識をもって授業に臨みましょう。		

教科	数学	科目	数学A	学年	2年(園芸クリエイト科)	単位数	2
教材	教科書	高校数学A			出版社名	実教出版	
	副教材	特になし					

学習の目標	1 順列・組合せや確率について理解し、事象を数学的に考察し処理できるようにします。 2 基本的な図形の性質への理解を深め、見方を豊かにし、論理的に考察し処理できるようにします。 3 数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学的に考察し表現できるようにします。
-------	--

		教材内容(単元)	学習計画・内容	考查計画
1 学期	4月	1章 場合の数と確率 1節 場合の数	○順列や組合せの総数を求める公式等を理解し、具体的事象の場合の数を求めることができるようにします。	中間考查
	5月			
	6月	2節 確率	○同様に確からしいときの確率について、順列や組合せの知識を利用して求めることができるようにします。	期末考查
	7月			
2 学期	8月	2章 図形の性質 1節 三角形の性質	○三角形についての興味深い性質を理解し、辺(線分)や角に関する問題に利用できるようにします。	中間考查
	9月			
	10月	2節 円の性質	○円についての性質について学習し、円の弧や弦、円周角等の問題に利用できるようにします。	
	11月	3節 作図		
12月	4節 空間図形	○空間における直線や平面の位置関係やつくる角についての理解を深められるようにします。	期末考查	
3 学期	1月	3章 数学と人間の活動 1節 数と人間	○数の歴史について理解を深められるようにします。 ○2進法の仕組みを理解し、基数変換ができるようにします。 ○図形と人間の関りについて理解を深められるようにします。	学年末考查
	2月			
	3月	2節 図形と人間		

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	数学Aにおける基本的な概念や原理・法則を体系的に理解しているとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を身に付けている。	数学のよさを認識し、数学を活用しようとするとともに、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしている。また、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。
評価の方法	定期考查の得点や授業態度、活動状況・課題・小テスト・プリントやノート等の提出物などを各学期で観点別に評価します。それらの評価を用いて学年末の成績とします。		
学習へのアドバイス	1 学習内容全般において、数学の基本的な知識の習得と技能の習熟を図りましょう。 2 問題解決等を通して、物事を筋道立てて考えたり、具体的な手順などを考えてみましょう。 3 指示された範囲の予習をきちんとし、問題意識をもって授業に臨みましょう。		

教科	理科	科目	生物基礎	学年	2年(園芸クリエイト科)	単位数	2
教材	教科書	生物基礎			出版社名	実教出版	
	副教材	サンダイアルNavi&トレーニング生物基礎(啓林館)、生物基礎実験ノート・問題集(高教研理科部会生物部門)					

学習の目標	1 日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高めます。 2 目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てます。 3 生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養います。
-------	--

		教材内容(単元)	学習計画・内容	考查計画
1 学期	4月	1章 生物の特徴 1節 生物の多様性と共通性	○ 生物と遺伝子について観察、実験などを通して探究し、細胞の働き及びDNAの構造と機能の概要を理解させ、生物についての共通性と多様性の視点を身に付けます。	中間考查
	5月	2節 細胞とエネルギー		
	6月	2章 遺伝子とその働き 1節 遺伝情報とDNA	○ 生物は多様でありながら共通性をもっていることを理解します。 ○ 生命活動に必要なエネルギーと代謝について理解します。 ○ 遺伝情報を担う物質としてのDNAの特徴について理解します。	期末考查
	7月			
2 学期	8月	2節 遺伝情報の分配	○ DNAが複製され分配されることにより、遺伝情報が伝えられることを理解します。 ○ DNAの情報に基づいてタンパク質が合成されることを理解します。	中間考查
	9月	3節 遺伝情報とタンパク質の合成		
	10月	3章 生物の体内環境とその維持 1節 体内環境	○ 生物と遺伝子に関する探究活動を行い、学習内容の理解を深め、生物学的に探究する能力を高めます。 ○ 生物の体内環境の維持について観察、実験などを通して探究し、生物には体内環境を維持する仕組みがあることを理解し、体内環境の維持と健康との関係について認識します。	期末考查
	11月			
	12月			
3 学期	1月	2節 体内環境の維持の仕組み	○ 恒常性について理解します。 ○ 体内環境の維持に自律神経とホルモンが関わっていることを理解します。	学年末考查
	2月			
	3月			

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	生物や生物現象から問題を見いだし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	生物や生物現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究している。

評価の方法	定期考查の得点と提出課題、小テストなどを資料として観点ごとに評価し、学年末の成績は、各学期の成績を基に算出します。
-------	---

学習へのアドバイス	1 授業は集中して臨むこと。また、その日のうちに復習をしましょう。 2 問題集を活用し、知識の定着を行いましょ。う。 3 定期考查には全力で臨みましょ。う。
-----------	--

教科	保健体育	科目	体育	学年	2年(普通科、園芸クリエイト科)	単位数	2
教材	教科書	現代高等保健体育			出版社名	大修館書店	
	副教材	特になし					

学習の目標	1 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わいます。 2 課題を発見し、その解決に向けて思考し判断する態度を育てます。 3 公正、協力、責任、参画、一人一人の違いを大切に資質や能力を育てます。
-------	--

		教材内容(単元)	学習計画・内容	考查計画
1 学期	4月	1 体づくり運動	○ 南校体操、補強運動や集団走を正確に身に付けます。	中間 考查 期末 考查
	5月	2 陸上競技	○ 集団行動を通し、協力、責任、参画に対する意欲を高めます。	
	6月	3 球技 I	○ 体力を高め、自己の可能性に挑戦する楽しさを味わいます。	
	7月	4 体育理論	○ バレーボール、ソフトボール、卓球、テニスの中から選択して活動します。	
2 学期	8月	5 体づくり運動 ダンス	○ 運動会の集団演技の練習を行う中で、集団の中での協調性を養います。	中間 考查 期末 考查
	9月			
	10月	6 陸上競技	○ 長距離走を行うことにより、体力を高め、自己の可能性に挑戦する楽しさを味わいます。	
	11月	7 球技 II (その①)	○ バスケットボール、サッカー、卓球、テニスの中から選択して活動します。	
12月	8 体育理論	○ 運動やスポーツの効果的な学習の仕方について学びます。	期末 考查	
3 学期	1月	9 体づくり運動	○ 集団行動を通して、計画的な実践、協力、責任などに対する意欲を高めます。	学年 末 考 査
	2月	10 球技 II (その②)	○ バスケットボール、サッカー、卓球、テニスの中から選択して活動します。	
	3月	11 体育理論	○ スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴を学びます。	

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	運動の合理的、計画的な実施を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能が身に付いている。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決方法を思考・判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	生涯にわたって継続して運動に親しむために、運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするとともに、健康・安全を確保している。

評価の方法	授業態度、出席点、スキルテスト、記録、定期考查の得点等日々の学習活動について、観点ごとに評価し、学年末の成績は、各学期の成績を基に算出します。
-------	---

学習へのアドバイス	1 「鍛」を目標に体力・気力の充実を図り、たくましく生きる力を身に付けていきましょう。 2 積極的に参加し、自主的に協調性をもって行動しましょう。 3 一人一人が健康と安全に留意して臨みましょう。
-----------	--

教科	保健体育	科目	保健	学年	2年(普通科、園芸クリエイト科)	単位数	1
教材	教科書	現代高等保健体育			出版社名	大修館書店	
	副教材	特になし					

学習の目標	1	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けます。
	2	課題を発見し、その解決に向けて思考し判断する態度を育てます。
	3	生涯を通じて自他の健康の保持増進を行うための資質や能力を育てます。

		教材内容(単元)	学習計画・内容	考查計画
1 学期	4月	3単元 生涯を通じる健康 1 ライフステージと健康	○ ライフステージと健康の関連について理解します。	中間 考查
	5月	2 思春期と健康 3 性意識と性行動の選択	○ 思春期の健康について理解します。 ○ 性意識の男女差、性情報が性行動の選択に影響することについて理解します。	
	6月	4 妊娠・出産と健康	○ 妊娠・出産の健康課題について理解します。	
	7月	5 避妊法と人工妊娠中絶	○ 家族計画の意義について理解します。	期末 考查
		6 結婚生活と健康	○ 健康的な結婚生活について理解します。	
		7 中高年期と健康	○ 中高年期の健康について理解します。	
		8月	8 働くことと健康	
2 学期	9月	9 労働災害と健康 10 健康的な職業生活	○ 労働災害について理解します。 ○ 余暇の重要性について理解します。	中間 考查
	10月	4単元 健康を支える環境づくり 1 大気汚染と健康	○ 大気汚染の問題について理解します。	
	11月	2 水質汚濁、土壌汚染と健康	○ 水質汚濁、土壌汚染について理解します。	
	12月	3 環境と健康にかかわる対策 4 ごみの処理と上下水道の整備	○ 環境汚染について理解します。 ○ ごみ処理の現状について理解します。	期末 考查
		5 食品の安全性	○ 食品の安全性について理解します。	
		6 食品衛生にかかわる活動	○ 食品衛生について理解します。	
3 学期	1月	7 保健サービスとその活用 8 医療サービスとその活用 9 医療品の制度とその活用	○ 保健行政について理解します。 ○ 医療サービスについて理解します。 ○ 医薬品の制度について理解します。	学年 末 考 査
	2月	10 さまざまな保健活動や社会対策	○ 様々な保健活動や社会対策について理解します。	
	3月	11 健康に関する環境づくりと社会参加	○ 健康の保持増進のための環境づくりについて理解します。	

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けている。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝えている。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むための学習に主体的に取り組もうとしている。
評価の方法	定期考查の得点に加えて、課題学習、授業態度、小テスト等日々の学習活動について、観点ごとに評価し、学年末の成績は、各学期の成績を基に算出します。		
学習へのアドバイス	1 授業で学習した内容を積極的に日常生活に取り入れるように心掛けましょう。 2 保健や健康についての新聞やニュースに気を配り、日頃から健康について関心を持つようにしましょう。		

教科	外国語	科目	英語コミュニケーションⅡ	学年	2年(園芸クリエイト科)	単位数	2
教材	教科書	Amity English Communication II			出版社名	開隆堂	
	副教材	コーパス1800(東京書籍)					

学習の目標	1 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養います。 2 物語や説明文などを読んで、情報や書き手の考えなどを的確に理解する力を伸ばします。 3 基本的な語句や文を使って話したり、書いたりして、英語を用いて伝える力を伸ばします。
-------	--

		教材内容(単元)	学習計画・内容	考查計画
1 学期	4月	Lesson 1 Okinawa	○ 沖縄を紹介する文を通して、沖縄の魅力について学びます。	中間 考査 期 末 考 査
	5月	Lesson 2 The History of Japanese Food	○ 日本食の歴史を通して、古代から現代への日本食の発展について考えます。	
	6月	Lesson 3 Volunteer Work	○ 高校生のボランティア活動について学習します。	
	7月	復習		
2 学期	8月	Lesson 4 Gacha-gacha	○ ガチャガチャについての説明文を通して、外国人を引きつける日本文化について考えます。	中間 考査 期 末 考 査
	9月			
	10月	Lesson 5 Interesting Aquariums	○ 日本各地にあるユニークな水族館について学習します。	
	11月	Lesson 6 The Relay of Ahmed's Life	○ アハメドくんの物語を通して、平和について考えます。	
	12月	復習		期 末 考 査
3 学期	1月	Lesson 7 Artificial Intelligence	○ AIについて学習し、AIロボットと私たちの未来について考えます。	学 年 末 考 査
	2月			
	3月	復習		

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 日常的话题や社会的な話題について書かれた文の内容を捉える技能を身に付けている。 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して表現する技能を身に付けている。	日常的话题や社会的な話題について、必要な情報を読み取ったり聞き取ったりして、書き手や話し手の意図や概要、要点を捉えている。 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して伝えている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、話し手、読み手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いて表現し、コミュニケーションを図ろうとしている。
評価の方法	定期考査の得点と、授業における各活動や課題等を資料として観点ごとに評価し、学年末の成績は各学期の成績を基に算出します。		
学習へのアドバイス	1 予習・授業・復習のサイクルを大切にし、積極的に英語を使うことに努めましょう。 2 アクセントやイントネーションに気を付け、繰り返し発音・音読練習を行いましょう。 3 文法事項や重要表現を理解し、英語で表現する練習をしまししょう。		

教科	外国語	科目	論理・表現 I	学年	2年 (園芸クリエイト科 選択)	単位数	2
教材	教科書	MY WAY Logic and Expression I			出版社名	三省堂	
	副教材	特になし					

学習の目標	1 英語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成します。 2 事実や意見などを多様な観点から考察し、読み手や目的に応じて簡潔に書く力を育成します。 3 学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどをまとめて発表する力を育成します。
-------	--

	教材内容(単元)	学習計画・内容	考查計画
1 学期	4月 Lesson 1 Let's Talk about Ourselves	○ 動詞の現在形を使って、自己紹介のスピーチをします。	中間 考査 期 末 考 査
	5月 Lesson 2 School Life	○ 動詞の過去形や進行形を使って、好きだった教科や部活動について紹介します。	
	6月 Lesson 3 The Arts	○ 未来の表現を使って、今週末の予定について発表します。	
	7月 Lesson 4 Food and Culture	○ 現在完了形を使って、料理を注文するときの会話をします。また、日本の食文化を紹介するレポートを書きます。	
2 学期	8月 Lesson 5 Welcome to Our Town	○ 助動詞を使って、道案内の会話をします。また、受動態を使って地域の特徴を発表します。	中間 考査 期 末 考 査
	9月 Lesson 6 Traveling Abroad	○ 不定詞を使って、買い物の会話をします。また、友だちへメールを書きます。	
	10月 Lesson 7 Sports	○ 動名詞を使って、スポーツの試合について会話をします。また、分詞を使って競技を紹介します。	
	11月 Lesson 8 Everyday Technology	○ 比較を使って、紙の本と電子書籍の良さについて会話をします。	
3 学期	1月 Lesson 9 Take Care	○ 関係代名詞を使って、健康について発表します。	学 年 末 考 査
	2月 Lesson 10 SDGs — Take Action!	○ 関係副詞や仮定法を使って、SDGsについての発表原稿を書きます。	
	3月 復習		

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	外国語の音声や語彙、表現、文法言語の働きなどについて理解を深めている。 外国語の音声や語彙、表現、文法言語の働きなどの知識を、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、情報を整理しながら、外国語で適切に表現したり伝え合ったりしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手に配慮しながら主体的、自律的に外国語を用いて表現活動を行おうとしている。
評価の方法	定期考査の得点と、授業における各活動や課題等を資料として観点ごとに評価し、学年末の成績は、各学期の成績を基に算出します。		
学習へのアドバイス	1 予習・授業・復習のサイクルを大切にし、積極的に英語を使うことに努めましょう。 2 アクセントやイントネーションに気を付け、繰り返し発音・音読練習を行いましょ。う。 3 文法事項や重要表現を理解し、英語で表現する練習をしましょ。う。		

教科	家庭	科目	家庭総合	学年	2年(園芸クリエイト科)	単位数	2
教材	教科書	家庭総合			出版社名	実教出版	
	副教材	家庭科ノート、調理実習ノート(愛媛県高等学校家庭科教育研究会)、2023生活学Navi資料+成分表(実教出版)					

学習の目標	1	家族・家庭、衣食住、消費や環境などに関して科学的な知識と技能を身に付けます。
	2	家庭や地域及び社会における生活課題を設定し、生涯を見通して解決する力を養います。
	3	生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養います。

		教材内容(単元)	学習計画・内容	考査計画
1 学期	4月	第7章 衣生活をつくる 1節 人と衣服のかかわり 2節 衣服の素材の種類と特徴	○衣服の起源や風土に適した衣服について知り、衣服を着る意味を考えます。 ○快適な衣服の特徴や機能について考えます。	期末考査
	5月	3節 衣服の選択から管理まで	○衣服の入手から処分までの流れを学び、衣生活の計画を考えます。	
	6月	4節 持続可能な衣生活をつくる	○環境に配慮した衣生活について自分たちができることを考えます。	
	7月	5節 私たちがつなぐ衣生活の文化	○日本の和服をどのように継承していくか考えます。	
		6節 衣服をつくろう ホームプロジェクトの説明	○基礎的な縫製技術を身に付けます。 ○生活の中の課題解決学習をします。	
	8月	ホームプロジェクトの発表	○研究内容を発表します。	
2 学期	8月	第3章 子どもとかかわる 1節 子どもとは	○次世代を担う子どもを育て、はぐくんでいくことの責任感を養います。	期末考査
		2節 子どもの発達	○子どもの心身の成長の様子を学びます。	
		3節 子どもの生活	○子どもの食生活・衣生活、安全管理について学びます。	
	10月	4節 子どもをはぐくむ 5節 子どものための社会福祉	○保育所などで子どもとふれあいます。 ○子育てにかかわる社会的課題について知り、どのようなサポートが必要とされているのか考えます。	
	11月	第8章 住生活をつくる 1節 人間と住まい	○生活と住まいの機能とのかかわりについて考えます。	
		2節 住まいの文化	○現代の暮らしにいかすことができる和の住文化を学びます。	
3節 住まいを計画する		○ライフステージによる住まいの変化について考えます。		
3 学期	1月	4節 健康に配慮した快適な室内環境	○室内環境と健康のかかわりを考えます。	学年末考査
	2月	5節 安全な住まい	○災害情報の入手方法、安全への備えとして必要なことを考えます。	
	3月	6節 持続可能な住まいづくり	○居住問題についての法律・制度・施策を調べます。	
		生活設計	○家庭総合の2年間の学習を生かして、自分らしい生き方を設計します。	

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて科学的に理解しているとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けている。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。

評価の方法	定期考査の得点と、実習、ノートや課題の提出状況、授業態度等を資料として観点ごとに評価し、学年末の成績は、各学期の成績を基に算出する。
-------	--

学習へのアドバイス	1 実習科目であるので、欠席をしないで意欲的に取り組みましょう。 2 授業中はしっかりと話を聞き、理解し、考え、自分の意見を持ちましょう。 3 学んだこと、考えたことは実生活に生かしていきましょう。
-----------	---

教科	農業	科目	総合実習(野菜)	学年	2年(園芸クリエイト科 園芸生産類型 選択)	単位数	3
教材	教科書	特になし			出版社名		
	副教材	特になし					

学習の目標	1 農業の各分野に関する実験・実習等の体験的な学習を通して、総合的な技術を身に付けます。 2 野菜では、果菜類や葉菜類の栽培実習を中心に取り組み、基本的な知識や技術を身に付けます。 3 直売所での販売実習など様々な体験を通して流通の基礎について学習します。
-------	--

	教材内容(単元)	学習計画・内容	考查計画
2 学期	4月 1 野菜苗の栽培	<ul style="list-style-type: none"> ○各種夏野菜苗の育苗、野菜苗販売実習 後片付け・耕起を実習します。 ○栽培ほ場の準備について学習します。 ○定植や灌水、除草の仕方を学習します。 ○人工授粉の仕方を学習します。 ○芽かきの仕方を学習します。 ○整枝や誘引の仕方を学習します。 ○収穫の判断や収穫の仕方を学習します。 ○出荷調整や出荷の仕方を学習します。 	期末考查
	5月 2 夏野菜の栽培		
	5月 果菜類の栽培		
	6月 トマト		
	6月 スイカ		
6月 3 など			
7月 3 秋冬野菜の栽培	○栽培ほ場の準備について学習します。	期末考查	
7月 長ネギ			
8月 4 葉菜・根菜類の栽培	○栽培ほ場の準備を行います。		
9月 ブロッコリー	○定植や灌水、除草の仕方を学習します。		
9月 長ネギ	○灌水や除草について学習します。		
10月 10 キャベツ	○追肥や土寄せの仕方を学習します。		
10月 11 ダイコン	○生育状況を観察・調査します。		
11月 (菊花展準備)	○収穫判断や収穫について学習します。		
12月 5 野菜苗の育苗	○展示・清掃・調整など出荷調整や出荷について学習します。	期末考查	
12月 各種夏野菜苗の育苗	○土作りについて学習します。		
12月 各種夏野菜苗の育苗	○土壌消毒のねらいや方法を学習します。		
12月 各種夏野菜苗の育苗	○育苗準備の仕方を学習します。		
12月 各種夏野菜苗の育苗	○施設や育苗環境について学習します。		
3 学期	1月 各種夏野菜苗の育苗	○播種の仕方を学習し、実践します。	学年末考查
	2月 各種夏野菜苗の育苗	○育苗管理の仕方について学習します。	
	3月 各種夏野菜苗の育苗	○接ぎ木の仕方を学習し、実践します。	
	3月 各種夏野菜苗の育苗	○よい苗の姿について学習します。	
6 生産物工程管理	○GAPへの取組について学習します。		

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	野菜に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、野菜の栽培環境や栽培管理を正しく理解している。 野菜栽培に関する基礎的な技術を身に付けている。管理方法に合わせてその技術を適切に活用している。	野菜栽培に関して思考を深め、基礎的な知識と技術を基に合理的に判断し、その過程や結果を適切に表現している。	野菜栽培に関心をもち、授業態度が意欲的である。活動・観察記録票やノートを継続して記入し、実習に意欲的に取り組む姿勢が見られる。
評価の方法	各学期の定期考查の得点と授業時の活動・観察記録やノート、実習及び授業に取り組む姿勢などを資料として観点ごとに評価し、学年末の成績は、各学期の成績を基に算出します。		
学習へのアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> 1 活動・観察記録票やノートは丁寧に正確に記録しましょう。 2 栽培を通して、各々の栽培技術を理解し、その技術を習得しましょう。 3 野菜栽培に関心をもち、身近な課題を見付けて観察・調査に取り組みましょう。 		

教科	農業	科目	総合実習(果樹)	学年	2年(園芸クリエイト科 園芸生産類型 選択)	単位数	3
教材	教科書	特になし			出版社名		
	副教材	特になし					

学習の目標	1	農業の各分野に関する実験・実習等の体験的な学習を通して、農業に興味・関心を高めます。
	2	実際の経営・企画や管理する力など総合的な技術を身に付けます。
	3	果樹栽培を中心に組みますが、栽培から加工・デザインまでの幅広い学習を行います。

		教材内容(単元)	学習計画・内容	考查計画
1 学期	4月	1 苗木の管理 (1)主枝の剪定	○主枝の剪定方法の理解と技術を習得します。	期末 考查
	5月	(2)わき芽処理	○カンキツのわき芽処理を理解し、技術を習得します。	
	6月	2 カンキツの管理 (1)土壌管理	○カンキツの土壌管理を理解し、技術を習得します。	
	7月	(2)摘果	○カンキツの栽培管理を理解し、技術を習得します。	
2 学期	8月			期末 考查
	9月			
	10月	(3)収穫	○カンキツの収穫方法を理解し、技術を習得します。	
	11月			
	12月	3 カンキツの加工 (1)ミカンジュース製造	○カンキツの加工方法を理解し、技術を習得します。	期末 考查
3 学期	1月	4 カンキツの管理 (1)収穫	○カンキツの栽培管理を理解し、技術を習得します。	学年 末 考 査
	2月			
	3月	(2)剪定	○カンキツの剪定方法を理解し、技術を習得します。	
		5 果樹生産とGAP	○果樹のGAP取得の重要性を理解します。	

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	果樹に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、果樹の栽培環境や栽培管理を正しく理解している。 果樹栽培に関する基礎的な技術を身に付けている。管理方法に合わせてその技術を適切に活用している。	果樹栽培に関して思考を深め、基礎的な知識と技術を基に合理的に判断し、その過程や結果を適切に表現している。	果樹栽培に関心をもち、授業態度が意欲的である。活動・観察記録票やノートを継続して記入し、実習に意欲的に取り組む姿勢が見られる。

評価の方法	各学期の定期考查の得点、活動・観察記録やノート、実習及び授業や農業クラブ活動に取り組む姿勢等を資料として観点ごとに評価し、学年末の成績は、各学期の成績を基に算出します。
-------	--

学習へのアドバイス	1 実験・実習等の体験的な学習を通して、総合的な技術を身に付けましょう。 2 果樹の栽培を中心に、栽培から加工・デザインまでの幅広い学習に取り組みましょう。 3 目標を達成するため、積極的にみんなと協力して取り組みましょう。
-----------	--

教科	農業	科目	総合実習(草花)	学年	2年(園芸クリエイト科 園芸サービス類型 選択)	単位数	3
教材	教科書	特になし			出版社名		
	副教材	特になし					

学習の目標	1	農業の各分野に関しての実験・実習等の体験的な学習を通して、農業に興味・関心を高めます。
	2	実際の経営・企画や管理する力など総合的な技術を身に付けます。
	3	草花栽培を中心に取り組み、栽培から販売までの幅広い知識や技術を習得します。

		教材内容(単元)	学習計画・内容	考查計画
1 学期	4月	第5章 切り花生産 第4節 宿根草の切り花 ② キク	○ 栽培温度や開花習性について学ぶとともに、販売を通して一般に通用する草花の品質を学習します。 ○ 木付け菊の栽培を行い、菊の栽培管理について学習し、技術を習得します。 ○ カーネーションの栽培管理について学び、栽培・管理の技術を習得します。	期末考查
	5月	③ カーネーション		
	6月			
	7月			
2 学期	8月	第5章 切り花生産 第4節 宿根草の切り花 ② キク	○ 木付け菊の栽培を行い、菊の栽培管理について学習し、高品質な販売物の生産について知識・技術を習得します。 ○ シクラメンの葉組みや追肥、出荷調整を行い、栽培管理についての知識・技術を身に付けます。 ○ ポインセチアの定植や追肥、短日処理を行い、栽培管理についての知識・技術を身に付けます。	期末考查
	9月	第6章 鉢もの生産 第3節 鉢花 ② シクラメン		
	10月	④ ポインセチア		
	11月			
	12月			
3 学期	1月	第5章 切り花生産 第4節 宿根草の切り花 ③ カーネーション	○ 栽培管理や栽培環境について学ぶとともに、カーネーションなどの鉢物栽培の基本的な管理作業を身に付けます。 ○ 草花の栽培に欠かせない土作りについて学習し、知識と技術を習得します。	学年末考查
	2月	第6章 鉢もの生産 第2節 鉢ものの生産資材と商品化技術 ②用土		
	3月			

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	草花に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、野菜の栽培環境や栽培管理を正しく理解している。 草花栽培に関する基礎的な技術を身に付けている。管理方法に合わせてその技術を適切に活用している。	草花栽培に関して思考を深め、基礎的な知識と技術を基に合理的に判断し、その過程や結果を適切に表現している。	草花栽培に関心をもち、授業態度が意欲的である。活動・観察記録票やノートを継続して記入し、実習に意欲的に取り組む姿勢が見られる。
評価の方法	各学期の定期考查、課題・小テスト・ノート、実習及び授業に取り組む姿勢や栽培物の管理状況等を観点ごとに評価し、学年末の成績は、各学期の成績を基に算出します。		
学習へのアドバイス	1 卒業後も草花栽培のプロとして、様々なニーズに対応できる学習を行いましょう。 2 生産や販売に真剣に取り組むことで、責任感や達成感を感じられる学習をしましょう。 3 プロジェクト学習を通して、自ら考え行動する力を身に付けましょう。		

教科	農業	科目	農業と情報	学年	2年(園芸クリエイト科)	単位数	2
教材	教科書	農業と情報			出版社名	実教出版	
	副教材	特になし					

学習の目標	1	農業に関する情報を活用するための技術を身に付けます。
	2	農業の情報を活用して課題を発見し課題を解決する能力を身に付けます。
	3	農業の情報を調査・分析・活用し、農業や農業関連産業、社会貢献に取り組む態度を養います。

		教材内容(単元)	学習計画・内容	考查計画
1 学期	4月	1章 私たちの生活と農業の情報化 4節 農業を支える情報	○ 私たちの生活と情報の関わりについて学習します。	期末考查
	5月	2章 社会を支えるコンピュータ 5節 情報セキュリティ	○ 情報化社会のモラルとセキュリティについて学習します。	
	6月	3章 コミュニケーションと情報デザイン 2節 文書の作成と表現	○ 文書作成ソフトウェアの利用方法を学習します。	
	7月	3節 データの集計と視覚化	○ 表計算ソフトウェアの利用方法を学習します。	
2 学期	8月	6節 プレゼンテーション	○ プレゼンテーションソフトウェアの利用方法を学習します。	期末考查
	9月	7節 情報発信	○ Webページ作成・公開の方法を学習します。	
	10月	4章 スマート農業への展望 1節 スマート農業の将来	○ データ収集による農業情報システム、AIやロボットの農業への利用を学習します。	
	11月	2節 システム開発と設計	○ 農業における情報システムを学習します。	
	12月	3節 プログラムの設計	○ プログラミングの設計を学習します。	期末考查
3 学期	1月	4節 計測と制御	○ コンピュータによる計測制御の仕組みを学習します。	学年末考查
	2月	5章 農業情報の分析と活用 1節 農業情報の収集と分析	○ 農業に関する情報の収集・分析方法を学習します。	
	3月	2節 農業生産や経営情報の分析	○ 農業生産、農業経営に関する情報の活用方法について学習します。	

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	情報モラルや情報セキュリティについて正しく理解している。 パソコンやアプリケーションソフトの操作が身に付いている。 情報を収集し分析する能力が身に付いている。	収集した情報を身に付けた判断力で適切に処理し、分析した結果を評価することができる。	農業情報を活用したプロジェクト学習を行うことができる。

評価の方法	定期考查の得点と授業時のパソコン操作技術の習得度を資料として観点ごとに評価し、学年末の成績は、各学期の成績を基に算出します。
-------	--

学習へのアドバイス	1 キーボードの配置を覚えるためにタイピング練習を繰り返し行いましょう。 2 アプリケーションソフトの操作方法を習得しましょう。 3 AIやロボットを使った農業の将来を考えてみましょう。
-----------	---

教科	農業	科目	作物	学年	2年(園芸クリエイト科 園芸生産類型 選択)	単位数	2
教材	教科書	作物			出版社名	実教出版	
	副教材	特になし					
学習の目標	1 作物の栽培についての体験的、探究的な学習を通して、作物に対する興味・関心を高めます。 2 作物生産が健康や生命に直結し、持続的で豊かな生活をj提供する役割があることを理解します。 3 作物の特性や生理を知り、生産性の向上を図る能力や態度を学び、更に環境に対する意識を養います。						
	教材内容(単元)			学習計画・内容			考查計画
1学期	4月	第1章 作物生産の役割と動向 第1節 作物とは 第2節 作物栽培の動向		○作物の生活との関わりを学び、安全で安心な食品製造と作物生産を理解します。 ○作物生産、輸出入と消費を理解します。			中間考查 期末考查
	5月	第7章 いも類 第1節 イモ類の栽培的特性 第3節 サツマイモ		○作物としてのいも類の特性を学びます。 ○サツマイモの種類と栽培上の特性や用途に合った品種の選び方を理解します。			
	6月	第3章 イネの栽培 第1節 栽培的特性 第2節 栽培管理		○イネの種類や栽培の現状を学び、米ができるまでの成長過程を理解します。 ○移植実習を行い、本田管理を理解します。			
2学期	7月	第6章 豆類 第1節 豆類の栽培的特性 第2節 ダイズ		○作物としての豆類の特性を学びます。 ○ダイズの特性と栽培方法を学びます。			中間考查 期末考查
	8月	第2章 作物の特性と栽培技術 第1節 作物の種類と特徴 第2節 作物の生育と生理		○作物の用途や栽培上の特徴から分類のしかたを学びます。 ○作物の一生や各器官の働きを学びます。			
	9月	第3節 栽培環境と生育の調整 第7章 いも類 第2節 ジャガイモ		○環境が生育に与える影響を学びます。 ○ジャガイモの種類と栽培上の特性について学び、栽培実習をします。			
	10月	第3章 イネの栽培 第2節 栽培管理 第3節 栽培計画と評価		○稲刈り実習を行い、収穫と調製の目的や方法について学びます。 ○栽培計画と評価の手順を理解します。			
	11月	第4節 農業経営の特性 第4章 麦類 第1節 栽培的特性		○日本の稲作経営の状況を理解します。 ○麦類の種類と栽培上の特性を学びます。 ○品種の特性や用途を学びます。			
	12月	第2節 栽培管理 第7章 いも類 第2節 ジャガイモ		○収穫や加工実習を通して品種と特性や用途にあう品種の選び方を学びます。			
3学期	1月	第4章 麦類 第3節 農業経営の特性		○麦類の利用状況と流通のしくみ学び、経営の現状と将来展望を理解します。			学年末考查
	2月	第9章 作物の流通と経営の改善 第1節 流通とその改善 第2節 経営とその改善		○作物が生産者から消費者に届くまでの流通経路と必要な経費を理解します。 ○経営診断の重要性と方法を学びます。			
	3月	第11章 高校生による実践活動 第1節 G A P を導入した栽培		○作物栽培管理におけるG A P の重要性を学びます。			
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	作物に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、作物の栽培環境や栽培管理を正しく理解している。 作物栽培に関する基礎的な技術を身に付けている。管理方法に合わせてその技術を適切に活用している。		作物栽培に関して思考を深め、基礎的な知識と技術を基に合理的に判断し、その過程や結果を適切に表現している。		作物栽培に関心をもち、授業態度が意欲的である。活動・観察記録票やノートを継続して記入し、実習に意欲的に取り組む姿勢が見られる。		
評価の方法	各学期の定期考查の得点、活動・観察記録やノート、実習及び授業に取り組む姿勢等を資料として観点ごとに評価し、学年末の成績は、各学期の成績を基に算出します。						
学習へのアドバイス	1 作物の種類と分類を学び、作物の利用と食品の価値の重要性を理解しましょう。 2 作物の根・枝・葉の成長と開花と結実を学び、作物の成長を理解しましょう。 3 作物の土壌や栄養と施肥、水分管理を学び、経営改善の方法を理解しましょう。						

教科	農業	科目	野菜	学年	2年(園芸クリエイト科)	単位数	2
教材	教科書	野菜			出版社名	実教出版	
	副教材	特になし					

学習の目標	1 野菜の栽培と経営に必要な知識と技術を習得します。 2 野菜の特性や栽培に適した環境を理解します。 3 品質の向上と生産性を考える能力と態度を養います。
-------	---

		教材内容(単元)	学習計画・内容	考查計画
1 学期	4月	第4章 野菜栽培の実際 第1節 ウリ科野菜の栽培	○小玉スイカの特徴について理解します。 ○栽培床、定植の仕方を理解します。 ○管理機の構造と利用方法を理解します。 ○整枝の管理作業や観察をします。 ○誘引、受粉、追肥について理解します。 ○玉つり、摘果の管理作業を理解します。 ○果実肥大の仕方を理解します。 ○病害虫防除を理解します。 ○収穫の判断や収穫方法を理解します。 ○栽培の評価やまとめ方を理解します。 ○試食等による栽培の成果を検証します。 ○GAPについて学習します。	期末考查
	5月	1 野菜としての特徴 育苗、畑の準備		
	6月	2 生育の特徴、定植・誘引		
		3 栽培管理と商品化、整枝		
		4 人工授粉・整枝・施肥		
	7月	5 玉つり・人工授粉		
		6 病害虫防除・摘果		
	7月	7 収穫期の判断、観察調査 8 収穫・観察・調査 9 GAP		
	2 学期	8月		
9月		1 野菜としての特徴 畑の準備・播種・苗作り		
		2 生育の特徴、生育と環境		
10月		3 栽培管理と商品化、作型と品種		
		4 結球の仕方・追肥		
11月		5 病害虫防除		
		6 生育障害とその対策		
12月		7 収穫・観察・調査		
		8 収穫・調整		
12月		第3章 野菜の栽培と環境管理 第1節 果菜類の育苗		
		1 育苗のねらい 2 育苗の施設		
3 学期		1月	3 苗床(電熱温床)のしくみと特徴	○電熱温床のしくみと特徴を理解します。 ○土づくりや育苗の準備を理解します。 ○播種の仕方や発芽の様子を観察します。 ○自動播種機について理解します。 ○野菜の接ぎ木の方法を理解します。 ○接ぎ木後の管理について理解します。
	2月	4 育苗の環境		
		5 播種と発芽期の管理		
	3月	6 野菜苗の接ぎ木		

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	野菜栽培についての知識を高め、基礎的・基本的な内容を理解するように取り組んでいる。 野菜栽培の実習に真剣に取り組む、技能を身に付けている。	学習の内容を記録・観察し、プリントやレポートなどにまとめる能力を身に付けている。	野菜の栽培に関心をもち、学習の取り組みが意欲的である。座学では授業の準備を整え、時間内の内容を理解するように努め、実習の際には、準備・後片付けに自ら進んで取り組んでいる。

評価の方法	各学期の定期考查の得点と授業時の活動・観察記録やノート、実習及び授業に取り組む姿勢などを資料として観点ごとに評価し、学年末の成績は、各学期の成績を基に算出します。
-------	---

学習へのアドバイス	1 活動・観察記録票やノートは丁寧に正確に記録しましょう。 2 野菜栽培を通して、栽培技術を理解し栽培技術を習得しましょう。 3 野菜栽培に関心をもち、身近な課題を見つけて観察・調査に取り組みましょう。
-----------	---

教科	農業	科目	果樹	学年	2年(園芸クリエイト科 園芸生産類型)	単位数	2
教材	教科書	果樹			出版社名	実教出版	
	副教材	特になし					
学習の目標	1 果樹の栽培についての体験的、探究的な学習を通して、果樹に対する興味・関心を高めます。 2 果樹の特性や生理を知り、生産性の向上を図る能力や態度を養います。 3 果樹栽培と環境について学び、GAPや環境に対する意識や基本的知識を養います。						
	教材内容(単元)			学習計画・内容			考查計画
1 学期	4月	第1章 果樹の種類と果樹栽培の動向 第1節 果樹の種類と果実の利用 第2節 果樹栽培の動向		○栽培されている果樹の種類と分類を学びます。			中間 考查 期末 考查
	5月	第2章 果樹の生育と栽培環境 第1節 果樹の生育と生理		○果樹の一生についてそのあらましを学びます。			
	6月	第3章 果樹の栽培管理 第6節 結実管理 第7節 結実調節		○実習を行い、摘花・摘果の目的と方法を学びます。			
	7月	第3章 果樹の栽培管理 第2節 果樹の栽培と環境		○果樹の生育と環境要因の関係を理解し、果実生産に関わる環境要因を学びます。			
2 学期	8月						中間 考查 期末 考查
	9月	第3章 果樹栽培と環境 第3節 土壌管理 第4節 栄養と施肥		○果樹の土壌条件を知り、施肥の量・時期・方法について学びます。			
	10月	第4章 カンキツ類 第3節 収穫・選別・出荷・貯蔵と加工		○実習を行い、収穫・選別・貯蔵・加工について学びます。			
	11月	第3章 果樹栽培と環境 第5節 水分管理		○果樹のかん水の時期・量・方法について学びます。			
	12月	第8節 結果習性と整枝・せん定		○果樹の結果習性を理解し、整枝やせん定の目的や方法を学びます。			期末 考查
3 学期	1月	第3章 果樹栽培と環境 第9節 気象災害の防止		○かん水の時期・量・方法について学びます。			学年 末 考 査
	2月	第3章 果樹栽培と環境 第10節 病害虫の防止 第11節 植物成長調整剤の利用		○果樹を加害する主な病害虫の種類やその方法を学びます。			
	3月	第12章 高校生による実践活動 第1節 GAPを導入した栽培		○果樹栽培管理におけるGAPの重要性を学びます。			
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	果樹に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、果樹の栽培環境や栽培管理を正しく理解している。 果樹栽培に関する基礎的な技術を身に付けている。管理方法に合わせてその技術を適切に活用している。		果樹栽培に関して思考を深め、基礎的な知識と技術を基に合理的に判断し、その過程や結果を適切に表現している。		果樹栽培に関心をもち、授業態度が意欲的である。活動・観察記録票やノートを継続して記入し、実習に意欲的に取り組む姿勢が見られる。		
評価の方法	各学期の定期考查の得点、活動・観察記録やノート、実習及び授業に取り組む姿勢等を資料として観点ごとに評価し、学年末の成績は、各学期の成績を基に算出します。						
学習へのアドバイス	1 果樹の種類と分類を学び、果実の利用と食品の価値の重要性を理解しましょう。 2 果樹の根・枝・葉の成長と花芽分化の関係や開花と結実、果実の成長を理解しましょう。 3 果樹の土壌や栄養と施肥、水分管理を学び、結実や結果調節の方法を理解しましょう。						

教科	農業	科目	草花	学年	2年(園芸クリエイト科)	単位数	2
教材	教科書	草花			出版社名	実教出版	
	副教材	特になし					

学習の目標	1	草花の体験的、継続的な栽培活動と、観察、実験、調査、記録などの学習活動を行います。
	2	草花の生理・生態的な特性や栽培環境及びそれらと生育の相互関係を理解します。
	3	生育や環境の調節など栽培に関する基本的、体系的な知識と技術の習得を目指します。

		教材内容(単元)	学習計画・内容	考查計画
1 学期	4月	第2章 草花生産と消費の動向 第1節 草花園芸の特徴 ② 草花の種類	○ 草花の分類について学習します。	中間 考査 期 末 考 査
	5月	第5章 切り花生産 第4節 宿根草の切り花 ② キク	○ 盆栽菊・杉木立菊・笠菊の栽培管理作業について学習します。 ○ カーネーションの栽培管理作業と出荷調整について学習します。	
	6月	③ カーネーション		
	7月			
2 学期	8月	第2章 草花生産と消費の動向 第1節 草花園芸の特徴 ③草花の生産形態	○ 草花の生産形態について学習します。 ○ 草花の生産と消費の動向について学習します。	中間 考査 期 末 考 査
	9月	第2節 草花生産と消費の動向 ① 草花生産の動向 ② 消費の動向		
	10月	第5章 切り花生産 第4節 宿根草の切り花 ② キク	○ 盆栽菊・杉木立菊・笠菊の栽培管理作業について学習します。 ○ 菊花展での販売と、それに向けての販売準備を行います。	
	11月			
	12月			期 末 考 査
3 学期	1月	第3章 生活と草花の利用 第1節 草花の多面的利用 第2節 園芸デザイン	○ 草花の多面的な利用方法や園芸療法について学習します。 ○ 園芸デザインの基本として配色や装飾について学習します。	学 年 末 考 査
	2月			
	3月			

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	草花栽培についての知識を高め、基礎的・基本的な内容を理解している。 草花栽培の実習を真剣に取り組み、定植・整枝・誘引・育苗などの技能を身に付けている。	学習の内容を記録・観察し、プリントやレポートなどにまとめる能力を身に付けている。	草花の栽培に関心をもち、学習の取り組みが意欲的である。座学では授業の準備を整え、時間内の内容を理解するように努め、実習の際には、準備・後片付けに自ら進んで取り組んでいる。

評価の方法	各学期の定期考査、課題・小テスト・ノート、実習及び授業に取り組む姿勢や栽培物の管理状況等を観点ごとに評価し、学年末の成績は、各学期の成績を基に算出します。
-------	---

学習へのアドバイス	1 菊の栽培の基本(草花の種類や栽培方法等)について学びましょう。 2 品質と生産性の向上などの草花を栽培する技術を身に付けましょう。 3 草花の多面的利用に関心をもち、知識や技術の習得を目指しましょう。
-----------	--

教科	農業	科目	食品流通	学年	2年(園芸クリエイト科 選択)	単位数	2
教材	教科書	新版 食品流通			出版社名	実教出版	
	副教材	特になし					

学習の目標	1	食品の特性と安全な食品を安定的に供給する食品流通の役割や流通構造を学習します。
	2	販売や販売情報、マーケティングなど、食品流通の基礎的な知識や技術を学習します。
	3	食品の品質保証の必要性と日本の食品規格・基準について学習します。

		教材内容(単元)	学習計画・内容	考查計画
1 学期	4月	第1章 現代生活と食品流通 (1) 流通の動き (2) 食品流通の役割	○ 流通のなりたちを知り、流通とは何かを理解するとともに食品流通に求められる安定・安全・効率性を理解します。	中間 考査 期 末 考 査
	5月	第2章 経済活動と食料 (1) 世界の食糧事情	○ 日本の食生活の特徴や日本の食料自給について理解します。	
	6月	(2) 日本の食生活、食料需給と自給率	○ フードシステムのしくみを理解します。	
	7月	(3) 私たちをとりまくフードシステム	○ 検定試験に挑戦します。 ○ GAPの取組の意義について理解します。	
2 学期	8月	第3章 食品流通のしくみと働き (1) 食品流通の特徴	○ 商品としての食品の特徴を理解し、流通経路の概要を理解します。	中間 考査 期 末 考 査
	9月	(2) 食品流通のしくみ	○ 卸売業者や小売業者の役割を理解します。	
	10月	(3) 価格の形成と流通経費	○ 需要と供給曲線、価格決定のしくみを学びます。	
	11月	第4章 主な食品の流通 (1) 米の流通	○ 米の流通の流れを理解する。	
	12月	(2) 青果物の流通	○ 検定試験に挑戦します。 ○ 青果物の流通の流れを理解する。	
3 学期	1月	第5章 食品の品質と規格 (1) 品質と品質保証 (2) 規格、表示と検査	○ 食品の品質と安全、品質保証について理解します。	学 年 末 考 査
	2月	第7章 食品マーケティング (1) マーケティングとは何か	○ マーケティングの意味と目的、特徴を理解します。	
	3月	(2) マーケティングの発展	○ 最近のマーケティングの基本的な課題を理解します。	

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	食品流通に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、その意義や役割を理解している。 食品流通に関する基礎的・基本的な知識や技術を身に付け、流通の諸問題解決に向け合理的に計画し、その技術を活用している。	食品流通の諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識を基に、食品流通業に携わる者として適切に判断し、表現する能力を身に付けている。	食品流通に関する諸課題について関心をもち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。

評価の方法	各学期の定期考査の得点と平常点を観点別で算出します。平常点は、活動・観察記録やノート、実習及び授業に取り組む姿勢などを考慮して観点別で評価します。
-------	---

学習へのアドバイス	1 食品流通に求められる安定・安全・効率性を理解します。 2 農産物の流通の仕方について学習をします。 3 流通の知識や技術を身に付けます。
-----------	--